横浜市立千秀小学校
平成２８年度　学力向上アクションプラン

1　中期学校経営方針

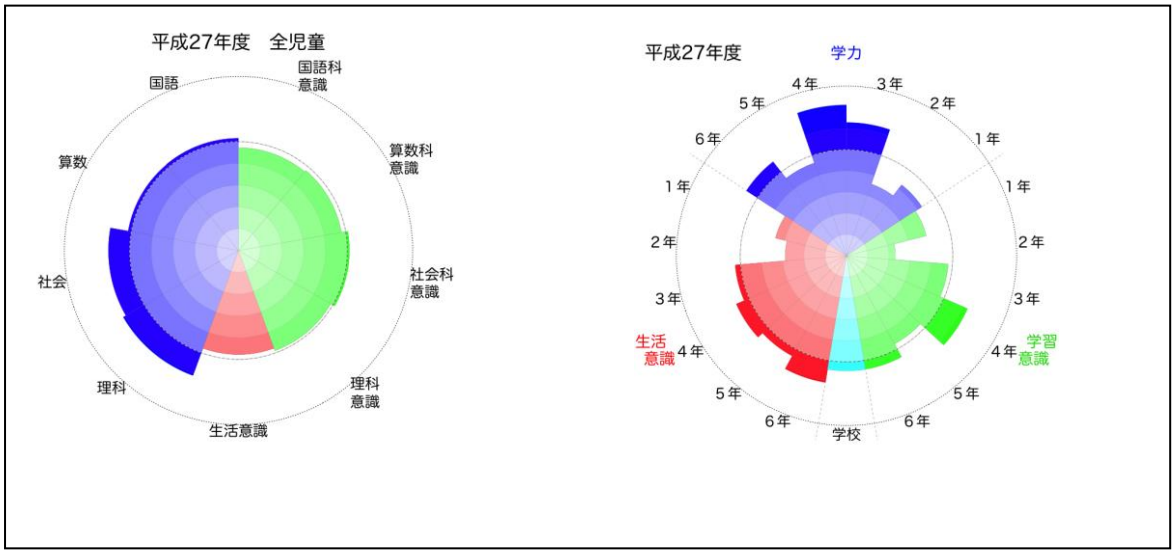
（１）学校経営中期取組目標

学 校 経 営 中 期 取 組 目 標
○学校教育目標を実現するために、全ての児童が豊かに自己実現できる学校づくりを目指します。 ・分かる喜び、できる楽しさを成就する授業づくりの推進のもと、本校に学ぶ全ての子が、自分の学びに自信をもった姿が育成されています。 ・本校に学ぶ全ての子が、互いの心と心を通い合わせ、共に生きる豊かな人間性と社会性をもった姿が具現化されています。 ・多様な運動機会の提供のもと、本校に学ぶ全ての子が、心身ともに健康でたくましく、楽しい学校生活を過ごせるようにしています。 ・本校に学ぶ全ての子の幸せのために小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携し、信頼に応えられる学校づくりを進めています。 ・本校教職員が相互に啓発・連携し、熱気と活気にあふれた学校運営組織が確立されています。

（２）学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取 組 目 標	具 体 的 取 組
確かな学力 （学習指導）		基礎・基本の定着を基盤に、個の思考・集団での思考（学び合い）を重視した授業を推進し、主体的な問題解決能力と表現力の育成を目指します。	○家庭学習と連結したマナビータイムの推進及び、スモールステップでの習得状況の把握を通して、基礎・基本の徹底を図る。 ○課題把握・自力解決・集団での思考の磨き合い・課題解決の学習スタイルの導入を進め考える力の育成を図る。合わせて、言語活動の活性化・学習力の育成も視野に入れていく。
担当			

2　横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



（１）学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均的な学力である。しかし、学年による格差が大きく、特に２７年度の１・２年生（現２・３年生　以降すべて旧学年）の学力の状況に問題が見られる。１年生では、項目に関わらず、国語・算数の全体での低調さが問題となっている。その要因としては、学習時間の学習形成が大きく影響しているものと考えられる。そういった背景から、学習意識も低く、学習する習観付け及び学習意欲を高めていくことが喫緊の課題となっている。２年生では、２６年度と比較して、改善はしてきているがまだまだな感がある。一方、３・４・６年生は、堅調であり、確かな学力の結果を示している。特に４年生は突出しており、全ての教科・領域において市の水準を大きく上回っている。昨年度の４年生の学習の様子を見ると、基礎・基本をしっかりと習得し、そのもとに個々の考える力を引き出す学習のスタイルが年間通して展開されていた。まさに本校の進めている学習スタイルが具現されていると言っても良いだろう。

（２）教科学習の状況

○国語科：全体的に、書く能力は市の平均をやや下回り、読む能力は比較的高い。言語に関する知識・理解の習得のばらつきが、学年によって顕著である。言語に関しては、学習を重ねることで向上が期待できるものでもある。今後を期待したい。

○算数科：１・２・５学年「知識・理解」「技能」が市平均を下回っている。「知識・理解」「技能」については学習のベースとなるところである。繰り返し習熟を図る立てが必要であろう。その他の学年はすべての項目で、市平均を上回っている。特に「思考・判断・表現」の力に良さが出ている。

○社会科：３年以上の実施のため，５年生を除き、すべての項目で上回っている。５年生は

○理　科：社会と同様３年生以上で実施。「技能」については大きく上回っている。また、６年生の思考・判断・表現の高まりも特筆すべきところがある。

（３）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成２４年度から２７年度過去４年間の経年変化の状況から、幾分かの波はあるが、学校全体として高まっている状況が見られる。特に、「知識・理解」「技能」あるいはＡ問題での向上が大きい。「考える力・判断する力」「表現する力」については若干の学年で向上は見られるが、まだまだ発展途上なところといって良いだろう。一方、教科意識や生活意識に目を向けると、４年間、若干の波はあるが、大きな変化は見られない。各教科の「勉強が好きか」という学習意識及び各教科の学力層とのクロス集計をみると、当然ながら「勉強が好き」と「学力」の数値は伴ったものとなっている。今後一層、自己解決の時間を大切にし、それをもとにした表現・交流を進め、友達と学ぶ楽しさに気付く授業づくりを行う必要があることが明らかになっている。表現・交流する際には、課題に対する考えを、子ども一人ひとりが明確にもつように指導を工夫することが不可欠である。これは、まさに本校が目指す「千秀学習スタイル」でもあることを付け加えておく。

３　平成 28 年度　学年・教科等としての具体的取組

１学年

- 学習に意欲的に取り組むために、各教科で導入を工夫して、児童の興味・関心を高める。
- 国語科等で自分の思いや願いを話す・書くなど、表現活動を大切にしていくようにする。
- 自分の経験をもとに、感想を発表できるように指導する。

２学年

○生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう、みんなに報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話合いをする場面を位置付ける。

○そのための手立てとして具体物の操作を大切にしたり、視覚的な提示をしたりする。また、体験活動を取り入れ、自分の考えを言葉・動作・図などを用いて表現する活動を取り入れる。

○既習事項を基に、今ある力で諦めずに粘り強く取り組む姿勢を育てる。

３学年

○国語・算数の基礎基本の定着を図るべく、マナビーの時間を利用した繰り返しの漢字テストの実施を位置付ける。漢字の書き取りだけでなく、筆順や画数を答える問題も取り入れる。算数では、復習（家庭学習）にプラスして予習（教科書に目を通す）を位置付ける。

○算数を中心に他教科でも協同学習を位置付ける。３人グループを形成し、知識問題を解いていくだけでなく、「なぜそうなるのか」図や言葉などを用いた説明を互いにする。（アクティブラーニング）思考力の向上、表現力の向上を目指す。

４学年

○　どの教科にも言えるが、①コミュニケーション ②構成・製作 ③探究 ④表現する場面を取り入れ、子どもが主体的に活動する授業づくりを目指す。

○　国語・算数における基礎・基本の定着を図る。そのために、授業、マナビータイムなどの時間を利用した反復練習、また、宿題の準備や家庭学習の定着も、家庭と連携をとりながら行っていく。

○　各教科において、話し合い活動を積極的に取り入れる。その際、自分の考えを筋道立てて説明したり、友だちと比較したりしながら新たな気づきができるように指導していく。

５学年

○各教科では、個の思考を集団の思考へと広げ、学び合いの時間となるように、目的や意図に応じて自分の意見を説明する場面を位置づける。

○自分の考えや必要な情報を、分類、整理したり、関連付けたりしながら考える学習を位置づける。

○自分の考えをはっきりさせ、根拠を明らかにして説明することができるような活動を取り入れる。

６学年

○　各科目における基礎・基本の定着を図るとともに、思考・表現力を必要とする問題にも取り組む。また、国語の学習を中心に「書く力」の向上を図る。そのために、授業、マナビータイムなどの時間を利用した反復練習、また、宿題の準備や家庭学習の定着も、家庭と連携をとりながら行っていく。

○　各教科・領域において、自分の考えを明確にもち、根拠をもとにしながら説明し合い、共通点や相違点を明確にした話し合い活動を積極的に取り入れる。

○　関連づけ、分類・整理など、多面的に考える学習と振り返りを計画的に位置づける。

個別支援学級

○　個別教育計画に基づき、子ども一人ひとりが、個性や能力を発揮できるように、個に応じた学習や課題の選択を進める。

○　基礎・基本である「かず」「ことば」の学習を継続的に進め、パターン化しながら「できる」「わかる」喜びをもたせ、意欲的に取り組めるようにする。

○　子どもごとの理解度に合わせて、視覚的に分かりやすい資料を中心とした指導を行う。